

# 竹鼻 瑠璃男（たけはな・るりお）

## 1、プロフィール

俳誌「寒雷」主宰加藤楸邨に師事。暖響賞受賞。

骨格の太い句を詠む。

青森現代俳句協会副会長を経て顧問。県俳壇の牽引者のひとり。

<生没>

1928(昭和3)年11月1日 ~ 2023(令和5)年4月15日

<代表作>

憎しみの棒のごとく太葱焼く

文鎮に来た銀蠅の動きかな

林檎園字洞中の鼻鳴く

毒茸の身を浄めんと月浴びぬ

母死ぬな困ひ菜を掘る雪の嵩

<青森との関わり>

俳誌「暖鳥」「雪天」を通して竹鼻瑠璃男ここにありの存在感を示した俳句作家。

## 2、作家解説

本名、輝雄。1928(昭和3)年、木造町(現つがる市)に生まれる。1943(昭和18)年、国鉄に奉職。機関士、秋田鉄道管理局機関車課員、運転部保安課事故係長を経て1981(昭和56)年、弘前運転区長。1984(昭和59)年退職。

句歴

1946(昭和21)年、木造町「如月吟社」入会

1955(昭和30)年、俳誌「寒雷」入会、加藤楸邨に師事

1957(昭和32)年、寒雷第四回暖響賞受賞。同年、暖響会員(同人)

1960(昭和35)年、現代俳句協会会員

1995(平成7)年、勲五等瑞宝章、「寒雷」「暖鳥」「雪天」同人  
青森県現代俳句協会副会長を経て顧問となる。

句集に、『ななかまど』現代俳句コレクション第2期・3(2015(平成27)年 現代俳句協会)、『雪量標』本阿弥現代シリーズ2Ⅱ・16(1990(平成2)年9月25日 本阿弥書店)、『竹鼻瑠璃男句集「つがる」』東奥文芸叢書俳句9(2014(平成26)年9月10日 東奥日報社)、『烏瓜』竹鼻瑠璃男句集(2017(平成29)年10月20日 文學の森)、エッセー集に、『自打罵多の記』(2007(平成19)年11月1日 北方新社編)がある。